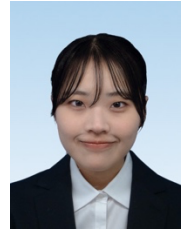


食がつなぐ、高知の風景

ー 人と文化が交わる、食空間の再構築 ー

Keywords

食 居酒屋 ローカルカルチャー
高知城 賑わい コミュニティ



DZ22188 成岡 桜

1. はじめに

本計画は、閉じた1階空間で完結する「ひろめ市場」を、通りに開かれた多層的市場として再構築する提案である。追手筋通り沿いの中心市街地に位置し、高知城や周囲の賑わいを望む立地を活かし、建築の高さや抜けを通して内部活動を街へにじませることで、食を起点に人と文化、日常と観光が自然に交わる都市空間の創出を目指す。高知ならではの「おきゃく文化」や「酒文化」の精神を受け継ぎつつ、より多世代に開かれた新しい“ひろめ”の風景を提案する。

2. 研究背景

2.1 高知の自然と食文化

高知の人々にとって、食は日常生活に深く根ざした大切な存在である。山・川・海に恵まれた豊かな自然環境の中で育まれた食文化は、単なる食事行為ではなく、人と人との関係性や地域の風土を映し出すものである。

また、高知には日曜市をはじめとする路上での市場文化や、宴会・酒文化といった、食を通じて人々が集い、交流を育んできた独自の食文化が存在する。こうした文化的背景が、高知らしさの中核を成している。

2.2 食と酒が育むコミュニティ

高知には「おきゃく」と呼ばれる独特の宴会文化があり、室内外を問わず、誰かのために宴を開き、食と酒を通じて人と人のつながりを深めてきた。この文化は、世代や立場を超えた関係性を育む土壌となっている。ひろめ市場においても、密集した座席配置や通路にまであふれる客席といった、一般的には「不便」や「迷惑」と捉えられがちな空間構成が、かえって偶発的な会話を生み交流のきっかけとなっている。

この“話さざるを得ない状況”こそが、高知の飲みニケーション文化をかたちづけてきた。空間や家具の配置が高知ならではの人々の関係性を生み出す点に着目し、こうした特性を設計に応用することで、地元の人と観光客が自然に交わる場を創出したいと考えている。

現在でも、年に一度、商店街にこたつを並べておきゃくを楽しむイベントが開催されるなど、この文化は現代の

まちの中にも息づいており、人々の関係性を育む暮らしの知恵として受け継がれている。



図1 おきゃくの様子

2.3 問題提起

現在のひろめ市場は、開業から四半世紀を経て老朽化や混雑といった物理的課題に加え、閉鎖的空間構成により、外部空間との関係が希薄である。飲酒を前提とした利用が中心で、子どもや高齢者が滞在しにくく、長時間の滞在も難しいため、幅広い世代や利用目的への配慮が十分とは言えない。また、高知城の至近という立地的魅力を活かしきれておらず、眺望や景観との関係性も弱い。さらに、食文化を体験・学習する場ではなく、消費に偏った構成となっている点も課題である。

3. 研究目的

本研究の目的は、ひろめ市場の「高知らしいにぎわい」や「食を介した人のつながり」を継承しつつ、多世代・多様な来訪者が心地よく過ごせる市場空間を再構築することである。閉じた1階空間で完結していた既存市場を、街に開かれた多層的空間として再編し、食を通じて人と文化、日常と観光が交わる都市風景を創出する。また、都市に対して閉じられていた既存立体駐車場を開放的な場に変容させ、高知の新たな“顔”としての景観づくりに寄与することも本計画の目的である。



図2 ひろめ市場の様子

4. 対象敷地

4.1 敷地概要

計画地は、高知市中心部に位置する「パーキング24追手筋店」であり、現在は立体駐車場として利用されている。敷地は、よさこい祭りや日曜市が開催される追手筋に面し、観光資源である高知城も至近に望むなど、文化的・歴史的価値の高いエリアに立地している。建物は40m程の高さだが、外部に開口部がなく、コンクリートの壁面が街並みに対して閉鎖的な印象を与えている。



図3 パーキング24追手筋店 (Google earthより)

4.2 敷地選定理由

本計画では、現在のひろめ市場が持つ「にぎわい」や「高知らしさ」を継承しながら、より開かれた都市空間としての市場の在り方を提案することを目的としている。そのため、文化的資源や日常的な活動と連続し、かつ都市景観との関係性を活かせる立地が必要だった。

本敷地は、追手筋通りに面し、日曜市やよさこい祭りといった高知を象徴するイベントが行われる動線上にあるため、日常と非日常が交わる場である。また、西側には高知城があり、敷地からはその天守を綺麗に望むことができる。高知城との間には主に学校があり、将来的に高層建築によって視界が遮られる可能性も比較的低い。このように、歴史的景観と都市のにぎわいが交差する立地特性を活かし、地域の風土や記憶を取り込んだ空間の提案が可能であると判断し、本敷地を選定した。

4.2 敷地分析

計画地は、追手筋に面し、日曜市やよさこい祭りといった高知らしい賑わいの中心に位置しながら、現在は立体駐車場として閉鎖的に利用され、街との関係が断絶している。無窓で閉ざされた外観が街路の活気を遮り、都市の賑わいと視覚的連続性が途切れている状況である。

本計画では、既存の駐車場は解体し、立体駐車場と同程度の高さの建物を新たに建設する。これは、高知城を6階以上から綺麗に望むことができる高さとして計画しており、街の賑わいと景観の両方を最大限に活かすための高さ設定である。

5. 設計主旨

5.1 コンセプト

本計画は、閉じられた1階空間で完結してきた既存ひろめ市場を、高層化によって街に開かれた立体的な市場へ

と再構築する提案である。市場を積層することで、高知の街並みを眺めながら飲食できる環境を創出し、観光客の非日常と、地元の暮らしが重なり合う新たな市場空間を目指す。また、ひろめ市場特有の密度感や賑わいを高層においても継承するため、縦方向の回遊性と視線の重なりを重視する。吹き抜けやテラス、家具配置による偶然の相席や会話を通して、高知らしい人々の関係性が自然に生まれる市場を構想する。

5.2 ゾーニング

既存のひろめ市場は、1階に市場空間、2,3階に駐車場を持つ構成で、敷地面積は4,056㎡である。これに対し、本計画の敷地は1,445㎡とコンパクトであるため、既存の構成を反転させた高層・多層型の市場を計画する。周辺環境から2・3階は眺望条件が十分でないことを踏まえ、これらの階を駐車場とし、より眺めの良い4階以上に市場・飲食空間を配置することで、高知の街並みを楽しむことができる飲食環境を実現する。

6. おわりに

本設計では、食文化を起点に高知のにぎわいや風土を未来へつなぐ新たな市場の姿を提案した。建築を文化や人の関係性を育む“場”と捉え、まちに開かれた公共空間への転換を図った。

この場所が、高知を感じる入り口として、まちの新たな風景となることを願っている。

参考文献

- 1)土佐の「おきゃく」 2025 リーフレット
[/https://tosa-okyaku.com/okyaku2025_leaf02.pdf?utm_source=chatgpt.com](https://tosa-okyaku.com/okyaku2025_leaf02.pdf?utm_source=chatgpt.com)
- 2) 高知県教育委員会文化財課. (n.d.). 国指定重要文化財・建造物 高知城.
https://www.kochinet.ed.jp/bunkazai/details/110-1/110-1-06.htm?utm_source=chatgpt.com
- 3)高知市. (n.d.). お城の見えるまちづくり (景観形成重点地区) .
https://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/52/oshirogamieru.html?utm_source=chatgpt.com

本卒業設計は、高知の食文化と人のつながりを象徴する「ひろめ市場」を、街に開かれた立体的な市場として再構築する提案である。閉じた1階完結型の市場を高層化し、吹き抜けやテラス、縦方向の回遊動線によって賑わいを重ねることで、観光の非日常と地域の日常が交わる新たな食の風景をつくり出すことを目的とした。

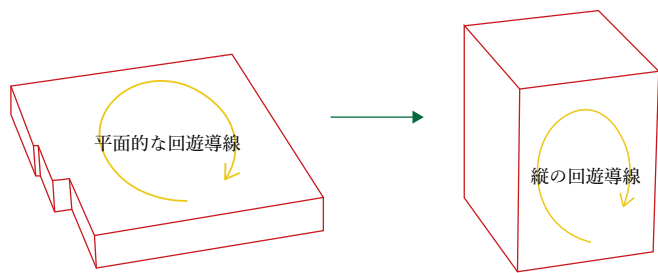
設計主旨

コンセプト

ひろめ市場を立体化し、高知の街並みを眺めながら食事できると同時に、食べる人々の営みが街の風景となる、街に開かれたにぎわいの市場空間をつくる。

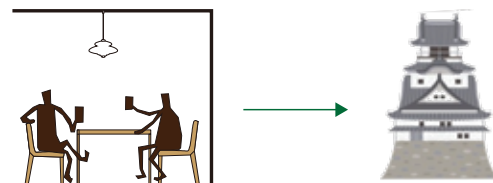
設計手法

①ひろめ市場を立体化する



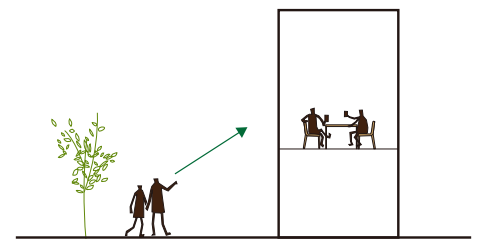
従来の1階完結型市場を、上方向に積層した立体的な市場へ転換する。
平面的な混雑や閉鎖性を解消し、空間的な広がりと多様な居場所を生み出す。
高さ方向に市場を展開することで、新しい回遊体験をつくる。

②眺望と食体験の融合



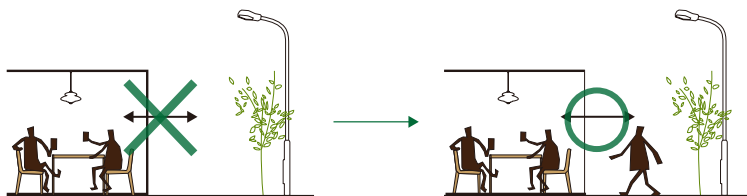
高知の街並みを眺めながら食事できる場
高知城、追手筋、商店街、山並みなどの地域景観を内部空間に取り込む。
「食べる行為」と「街を眺める行為」を同時に成立させる。
観光客にとっては非日常的な体験、地元住民にとっては日常の延長となる居場所をつくる。

③食べる人の営みを風景化する



食べる人々の営みが街の風景となる
ガラス張りの立体市場によって、内部のにぎわいを街に
向かって可視化する。

④街に開かれた市場空間



街に開かれたにぎわいの市場
外部と内部が視覚的・動線的につながる構成とする。
観光客だけでなく、通行人や地域住民も自然に立ち寄れる開放性をもつ。
市場が街の中に閉じるのではなく、街と相互に影響し合う存在となる。

④継承されるひろめ市場らしさ



にぎわいと人のつながりの継承
偶然の相席、視線の交差、会話の発生といった関係性を空間構成によって誘発する。
吹き抜け、テラス、縦動線、家具配置などにより、密度感と一体感を生み出す。
高層化しても「ひろめ市場らしい距離感」を失わない設計を目指す。

⑥この計画が生む新しい価値

食べる行為が「体験」となり、さらに「都市の風景」となる。
市場が建物の中の施設ではなく、街のにぎわい装置となる。
高知の文化・食・人の関係性を可視化する新しい都市の象徴となる。